

「がん化学療法に伴う有害事象発現率の現状調査」へのご協力をお願い

研究機関名 名古屋市立大学大学院医学研究科

名古屋市立大学病院

責任研究者 名古屋市立大学大学院 医学研究科 臨床薬剤学 教授

名古屋市立大学病院 薬剤部 薬剤部長 木村和哲

分担研究者 名古屋市立大学病院 薬剤部 化学療法係長 黒田純子

1. 研究の意義と目的

がん化学療法に伴う有害事象の管理は、化学療法を継続していくために重要です。がん化学療法に伴う悪心嘔吐（chemotherapy-induced nausea and vomiting；CINV）は患者様の生活の質を著しく低下させます。ところが、医療提供者は患者様の CINV 症状を正しく評価・予測するのが困難な場合があります。

現在国内では、新規制吐薬としてニューロキニン 1 受容体拮抗薬であるアプレピタント、セロトニン 3 受容体拮抗薬であるパロノセトロンが新しく使用可能となっています。また制吐薬適正使用ガイドラインも策定され、各々の化学療法の催吐性リスクに応じた制吐剤が定められております。しかしながら、制吐薬使用および CINV 発生状況についての新規薬剤・国内ガイドライン導入後における、網羅的な現状調査はなされておらず、適切な制吐療法の確立を目指していくために検討が必要と考えられます。

また、手足症候群はがん化学療法施行に伴い発症する手足の皮膚障害であり、患者様の生活の質を低下させる要因の 1 つとして、その対策が重要となっています。従来はフッ化ピリミジン系薬剤などの副作用として起こることが知られておりましたが、ドキシソルビシン・リポソーム製剤やドセタキセル、近年新たに登場したキナーゼ阻害薬などの分子標的薬でも認められています。しかしながら、多くの薬剤やレジメンにおける手足症候群に対する現状調査はなされておらず、手足症候群の頻度及び重症度等を調査することは、手足症候群対策を考慮する上で非常に重要な情報であると考えられます。

2. 研究の方法

【対象】

当院にてがん化学療法を受けられた患者様が対象となります。

【研究期間】

平成 29 年 2 月の倫理審査委員会承認後から

【方法】

当院にてがん化学療法を受けられた患者様の臨床検査値を後方視的に調査し、有害事象発現率を検討いたします。

【情報の保護】

調査情報は、名古屋市立大学病院薬剤部内において厳重に取り扱います。個人情報管理者及び個人情報管理補助者を置き、他のコンピュータから独立したコンピュータを使用し、外部記憶装置に記録させ、そのメディアは鍵をかけて厳重に保管いたします。本研究の成果は、患者様個人を特定できない形で関連学会及び学術論文として発表させていただく予定です。

本研究にご質問等ございましたら下記連絡先までお問い合わせください。ご自身の情報が研究に使用されることにご了承いただけない場合は研究対象といたしませんので、下記連絡先までお申し出ください。この場合も診療等、病院サービスにおいて皆様に不利益が生じることは決してございません。

〈問い合わせ先・連絡先〉

名古屋市立大学病院 薬剤部

氏名：黒田純子

TEL：052-851-5511 FAX：052-858-7402